

さよなら原発！ さよなら空母！

プラトニウムフリーコミュニケーション神奈川

2012年9月30日 第3号

原発なしで暮らしたい…！

～次の悲惨を誰にも体験させないために 今こそ知っておきたい本当のこと

毎週金曜日の夜、「再稼働撤回」「子供を守れ」などと訴える声が、首相官邸前から永田町・霞が関一帯に拡大

しながら響き渡っています。デモなど未経験の市民の怒りの声は途絶えることはありません。

今年の猛暑でも、大飯原発の再

稼働は必要ありませんでした。

9月14日関係閣僚による「エネルギー・環境会議」は、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。国民の圧倒的な声に押されて、不十

分ながらも「原発ゼロ」の言葉が入りましたが、経済界や米国の圧力で今にも消えそうです。また、野田政権は福島

原発事故を生み出した原子力ムラの中心人物を抜擢した「原子力規制委員会」と原子力安全保安院を衣替えしただけの原子力規制庁を

9月19日に発足させました。

「原子力ムラからの決別」「利用と規制の分離」「国民の信頼の回復」といった原子力規制委員会設置法の趣旨を踏みにじり、この人事を強行

した背景には、原子力ムラの強大な圧力がかかっていることは疑いの余地がありません。

山口幸夫さんに、原発事故、再稼働、核燃料再処理政策など、原発の現在の真実と今後を語っていただきます。

PEACE FESTIVAL '12

10月21日(日)

9:00~15:30

三笠公園(京浜急行線横須賀中央駅から徒歩)

入場無料

☆メイン企画

原子力空母とオスプレイ配備の危険性を展示

☆子どもお祭り広場

「原発ゼロ」シナリオを選択し、直ちにすべての原発を廃炉に！

「8.12で決まる未来の原発政策」から国家戦略会議へ提言提出

エネルギー・環境会議から「エネルギー・環境に関する選択肢」が示され、国民的議論が行われました。市民主催の集会にも国家戦略室の担当官

が選択肢の説明に来ることを知り、8月8日、横浜で「黙っていたらどこにも声は届かない！～あなたの意見を政府に伝えよう～8.12で決まる未来

の原発政策」を開催しました。主催は、3.11以降、原発のリスクに初めて気付いた個人や様々な分野のグループなどが集まって横浜でパレードや講演会を行ってきた「さよなら原発・神奈川」が母体の実行委員会です。当日参加者全員で採択した『日本政府が「原発ゼロ」シナリオを選択し、直ちにすべての原発を廃炉とすることを求める宣言』、『「8.12で決まる未来の原発政策」主催者からの提言』などはさよなら原発・神奈川とプル

トニウムフリー神奈川でダウンロードできます。宣言の抜粋は下記のとおりです。

会場アンケートでは、参加者110名のうち60名の方からご意見が寄せられました。

原発比率の選択肢については、

- 「原発比率ゼロシナリオ（今すぐ原発比率ゼロ）」が57名
- 「その他（再稼働反対、即廃炉）（広報不十分（未記入）」が各1名です。

「原発比率ゼロシナリオ（今すぐ原発比率ゼロ）」支持が、アンケート提出者の95%を占めていました。

日本政府が「原発ゼロ」シナリオを選択し、直ちにすべての原発を廃炉とすることを求める宣言

私たちはエネルギー・環境会議から「エネルギー・環境に関する選択肢」が示され、国民的議論が行われることを知り、横浜で開催された「8.12で決まる未来の原発政策」に集まった市民です。

そもそもこの国民的議論は、昨年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、これまでの原発推進体制を見直し、日本のエネルギー政策を白紙に戻して、「脱原発依存」に向けた検討を行うために開始されたものです。福島第一原発からは放射性物質の放出が続いており、いまだ「収束」とは程遠い状態です。そして、この事故により16万人といわれる避難者は生活基盤を奪われ、放射能という見えない敵の前で苦しんでいます。

（中略）

今私たちは、未来の世代のために、未来の地球のために、次のことを日本政府に対して求めることを宣言します。

1. 現在止まっている原発を再稼働させることなく、全ての原発を廃炉にすること
2. 真に中立公正な原子力規制委員会及び原子力規制庁を確立すること
3. 原子力偏重のエネルギー関連予算を大幅に組み替え、省エネ、再生可能エネルギーに配分すること
4. 市民一人一人が、発電方法の種類などで契約先を選べる制度を実現し、十分な供給力が担保できるようにあらゆる支援を行うこと
5. 使用済み核燃料の再処理、核燃料サイクル計画をすべて中止し、使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）は冷却水や電源を使わず、地上で安全に管理できる方法で保管すること

以上

2012年8月8日

「8.12で決まる未来の原発政策」参加者一同



「内部被ばくを生き抜く」 横浜上映会開催

9月6日(木)、ストッププルトニウム神奈川連絡会の主催で、鎌仲ひとみ監督の「内部被ばくを生き抜く」の上映会を新横浜のスペース・オルタで開催しました。十分な準備期間が取れる予定でしたが、原子カムラの中

心人物を抜擢する「原子力規制委員会人事案」に同意しないように国会議員を回り…、2030年までのエネルギー選択に関する国民的議論（パブコメ）の締め切りが8月12日まで…と、政府の動きにふりまわされました。

上映会の準備期間は実質的に1か月足らずでしたが、9月6日、午後、夕方、夜の3回上映で約200人が入場、鎌仲監督には各回とも講演をお願いし、アンケートに寄せられた意見も好評でした。

参加者の声から 一部をご紹介します

「4才の娘がいますが、日頃野菜・牛乳など
 “もう大丈夫だろう”と思いはじめていましたが、
 DNA 遺伝子などのわかりやすい映像で“ドキッ”
 とさせられました。(30代女性)」「政府やメディアが表に出さない情報がいかに多いかを改めて気づかされました。市民一人一人が主体的に考える事の重要性を再認識致しました。(20代男性)」「自分を含め「福島のこと」と思っている方が、まわりには多く… 日本で大変なことがおきている！と思わなければいけませんね(40代女性)」「低線量被ばくについて、わかりにくいものと思っておりましたが、映画をみてとてもよくわかりました。原発の恐さ、改めて認識しました。(60代女性)」「最後の肥田先生の言葉が心に響きました。



“生きるための最良のことをしていく” —このことを行政がバックアップしていくことが重要だし、そういう社会に変えていくことを急ぐべきだと感じた。(50代男性)」「素晴らしく、福島の実態に切り込んだ映画でした。親せきが南相馬で今も暮らしています。先日、福島に行った時の様子と重なる所、さらに広がる所がありました。もう本当に原子力発電所をはじめとした核についてはゼロにしたいと改めて強く感じました。」



「核燃料サイクルからの撤退、建設中の原発の設置許可取り消し、全ての原発の即時廃炉を求める要望書」提出

9月26日、再処理とめたい！首都圏市民のつどいの経産省別館前行動に参加して、プルトニウムフリーから野田首相、枝野経産大臣あての要望書を読み上げ、経済産業省職員に手渡しました。

政府関係閣僚によるエネルギー・環境会議は9月14日、「革新的エネルギー・環境戦略」を決定しました。その内容は、「2030年代に原発稼働ゼロを可能とするよう、あらゆる政策資源を投入する」というものです。パブリックコメントや各地の意見聴取会、討論型世論調査などの「国民的議論」の結果を受けて、政府がはじめて、不十分ながらも「原発ゼロ」を掲げたという点は、これまでの原発推進路線からすれば大きな前進です。しかし、パブリックコメントで約8割、福島の意見聴取会でほぼ全員が、「即時原発ゼロ」を支持したことからすれば、全

く不十分と言わざるを得ません。8月8日に横浜で当会も参加して開催した自主的意見聴取会では、参加者全員の総意により『日本政府が「原発ゼロ」シナリオを選択し、直ちにすべての原発を廃炉とすることを求める宣言』を採択しました。この宣言を含めて、『「8.12で決まる未来の原発政策」主催者からの政策提言』を取りまとめ、8月13日、エネルギー・環境会議議長の古川大臣、副議長の枝野大臣、細野大臣あてに提出しています。ところが、枝野大臣は、「経産省としては工事許可を出した原発について変更することは考え

ていない」と、建設中の原発の継続を容認しています。もし「40年運転制限を厳格に適用する」と、その原発は2050年を超えて運転されることになり、2030年代までに原発ゼロを可能にするという方針とも矛盾します。また、「革新的エネルギー・環境戦略」では、核燃料サイクル政策について、引き続き従来の方針に従い再処理事業に取り組むと、「再処理事業」を継続することを述べていますが、「原発ゼロ」の未来を選択するのであれば、再処理は直ちに終わらせなければなりません。関係自治体との「約束」にとらわれることなく、日本政府として、

今後、核燃料サイクルから撤退する方針を表明し、再処理事業の中止および高速増殖炉もんじゅの廃炉を決定すべきです。

今年9月11日、日本学術会議が原子力委員会委員長あてに提出した「高レベル放射性廃棄物の処分に関する取組みについて」では、使用済み核燃料を含めた高レベル廃棄物の処分について、国民的合意形成を探るための基本的考え方として、「暫定保管および総量管理を柱とし

た政策枠組みの再構築」を提言しました。使用済み核燃料を含めて、「暫定保管」というモラトリアム期間を設定し、「総量管理」として「総量の上限の確定」と「総量の増分の抑制」を前提としたうえで、国民的議論による合意形成を行うようにそのプロセスを示したものです。地層処分計画については、超長期にわたる地質環境の安定性の評価については専門家の間でも認識が共有されておらず、現時

点での、科学的知見と技術的能力の限界を冷静に認識するよう求めています。

私たちは、核燃料サイクルからの撤退、建設中の原発の設置許可取り消し、全ての原発の即時廃炉を決定し、廃棄物の総量を確定したうえで、日本学術会議が求める「暫定保管」について国民的な議論を行うことを要望します。

以上

あなたも被害者！ 原発事故の責任者を地検に訴えよう！

『福島原発告訴団』説明会

講師：武藤類子さん（福島原発告訴団・団長）

日時：10月4日（木）18：30～20：30

会場：平沼記念レストハウス 3号室

—JR 京浜東北・根岸線 関内駅 南口徒歩5分
文化体育館の先— 参加費：500円

今年、6月11日、1324人の福島県民が福島検察庁に「福島原発事故の責任を問う」告訴を行いました。事故により日常を奪われ、人権を踏みにじられた者たちが力をひとつに合わせ、怒りの声をあげました。原発事故によって被害を受けたのは、福島県民だけではありません。今、1万人を目標に全国から告訴人を募っています。第2次告訴の締め切りは10月15日、説明会に来られない方は、ホームページで資料をダウンロードできます。

「福島原発告訴団・関東」で検索！

さよなら原発1000万人 アクション

10.13 さよなら原発集会 日比谷野外音楽堂

日時：10月13日（土）

13：30～15：00

15：00～パレード

今中哲二講演会

—福島県の放射能から子どもを守る
には—チェルノブイリからの教訓—

日時：10月20日（土）

14：00～16：30（開場13：30）

会場：横浜市立大学

カメラホール
京急金沢八景駅徒歩5分

署名のお願い

—福島4号機の核燃料プール
火災を防ぐために—

野田総理、枝野経産大臣、
廣瀬東電社長あての署名用紙
を同封します。ご協力お願い
します。

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川 定例会のお知らせ

日時 10月23日（火） 午前11時～午後3時

場所 神奈川県民活動サポートセンター 710号室

アクセス：横浜駅西口ヨドバシカメラ裏

プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川

〒221-0002 神奈川県横浜市神奈川区大口通 83-2-213（水沢気付）

Tel&Fax.045-423-0341 pu-free-com@k.nifty.jp

http://pu-free-com-kana.cocolog-nifty.com/blog/